

■金盃（SII）アラカルト（過去全 61 回の分析）

- ※第 1 回（昭和 31 年）から第 18 回（昭和 48 年）までは大井ダ 2,400m で実施
- ※第 19 回（昭和 49 年）から第 58 回（平成 26 年）までは大井ダ 2,000m で実施
- ※第 59 回（平成 27 年）から第 61 回（平成 29 年）は大井ダ 2,600m で実施
- ※第 21 回（昭和 51 年）は 2 頭が 2 着同着
- ※第 36 回（平成 4 年）は 2 頭が 3 着同着
- ※第 1 回（昭和 31 年）から第 50 回（平成 18 年）まではハンデキャップ競走として実施
- ※記録は平成 30 年 1 月 30 日時点

■上位人気馬の成績はそれなりだが……

単勝 1 番人気馬は 21 勝、2 着 10 回、3 着 5 回で、3 着内率が 59.0%、単勝 2 番人気馬は 13 勝、2 着 10 回、3 着 6 回で、3 着内率が 47.5%、単勝 3 番人気馬は 12 勝、2 着 7 回、3 着 6 回で、3 着内率が 41.0%となっている。上位人気に推された馬ほど好成績とはいえ、単勝 1～3 番人気馬の 3 着内率にはそれほど大きな差がない。

■3 番人気以内の馬によるワンツー決着は全体の 3 分の 1 ほど

過去 61 回のうち 46 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めている。また、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフイニッシュ決着は 21 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 5 回ある。

■9 歳馬の優勝例も

馬齢別の勝利数を見ると、4 歳が 20 勝、5 歳が 22 勝、6 歳が 9 勝、7 歳が 6 勝、8 歳が 3 勝、9 歳が 1 勝となっている。4～5 歳の若い馬が中心ではあるものの、幅広い馬齢から優勝馬が出ている。

■過去に 3 頭が“連覇”を達成

金盃において 2 回以上の優勝経験があるのは、第 45 回と第 46 回を制したインテリパワー、第 47 回と第 48 回を制したコアレスハンター、第 56 回と第 57 回を制したトーセンルーチェの 3 頭で、いずれも 2 年連続の優勝だった。

■牝馬は1勝、外国産馬は未勝利

牝馬の優勝例は第16回のヒダカスズランのみである。また、外国産馬は第44回でザフォリアが、第48回でナイキゲルマンが2着となっているものの、まだ優勝例はない。

■騎手別の歴代最多勝記録は「6」

騎手別の勝利数を見ると、6勝の高橋三郎騎手が単独トップ。内田博幸騎手、張田京騎手が5勝で2位タイ、石崎隆之騎手、佐々木竹見騎手が4勝で4位タイとなっている。

■3勝以上の調教師はまだいない

調教師別の勝利数を見ると、秋谷元次調教師、岡林光浩調教師、川島正一調教師、川島正行調教師、栗田繁調教師、栗田武調教師、小暮嘉久調教師、庄子連兵調教師、高橋三郎調教師、田中利衛調教師、遠間波満行調教師、福永二三雄調教師、藤田輝信調教師、宮下仁調教師が2勝でトップタイとなっている。

■3枠と6枠がやや優勢

枠番別勝利数を見ると、6枠（12勝）が単独トップ。3枠（11勝）が単独2位、5枠（9勝）が単独3位となっている。また、馬番別勝利数を見ると、3番（9勝）が単独トップ。1番と5番（各7勝）が2位タイだ。なお、未勝利の馬番はないが、2番、8番、13番、14番、16番はそれぞれ1勝ずつにとどまっている。

<伊吹雅也>